

クイックリファレンス

(A) コンピューター上のオーディオシーケンサー(DAW)に録音する

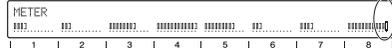
(1) ダイレクト録音

標準搭載している8chのアナログ入力(mLAN機器接続によりデジタル入力も含め最大24ch)をダイレクト(パラレル)に録音することができます。(工場出荷時の設定では、この接続になります)

2 機器に合わせて入力ゲインを調整する。<P.16>

1 録音する機器をO1Xの入力に接続する。

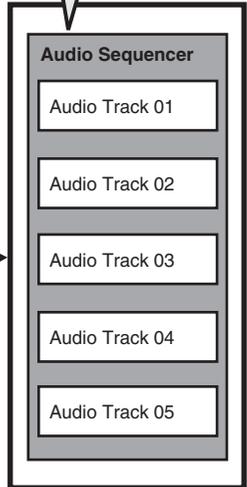
O1Xの画面で水平型のレベルメーターを表示させ、入力がクリップしていない(歪んでいない)ことを確認します。<P.46>
INPUT METER POINT = PRE EQ : 入力クリップ表示



mLAN出力へは EQ, Dynamicsをバイパスすることもできます。
DIRECT OUT POSITION = PRE EQ <P.91>

6 コンピューター(mLAN)とオーディオシーケンサーで設定し、録音する。

1. mLAN Auto Connectorで「From O1X to PC(Mac)」を録音するチャンネル数以上に設定する。<ガイド P.9、20>
- 2.オーディオシーケンサーでmLAN Audio Driverの各チャンネルを入力に選択する。<例：P.69>



Computer



Monitor

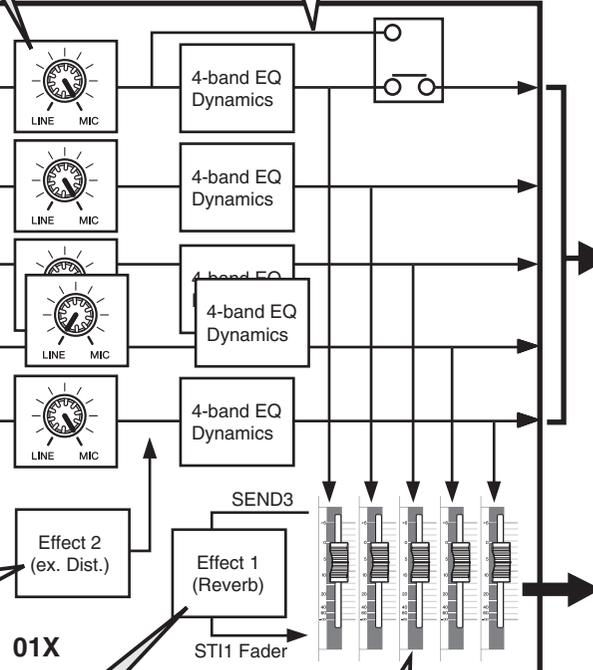
5 STEREOフェーダーとMONITOR/PHONESボリュームを調整する。

フェーダーで音量調節をしたあとに、mLANへ出力し、録音することもできます。<P.91>
DIRECT OUT POSITION = POST FADER

4 各チャンネルのフェーダーで録音チャンネルごとにダイレクトモニター音量を調整する。
Latency(音の遅れ)のないモニターができます。

3 各チャンネルのSEND 3(または4)とMaster LayerのSTI 1(または2)フェーダーを調整すれば、Reverbなどのエフェクトをモニター側のみにかけることができます。(録音される音にはかかりません)

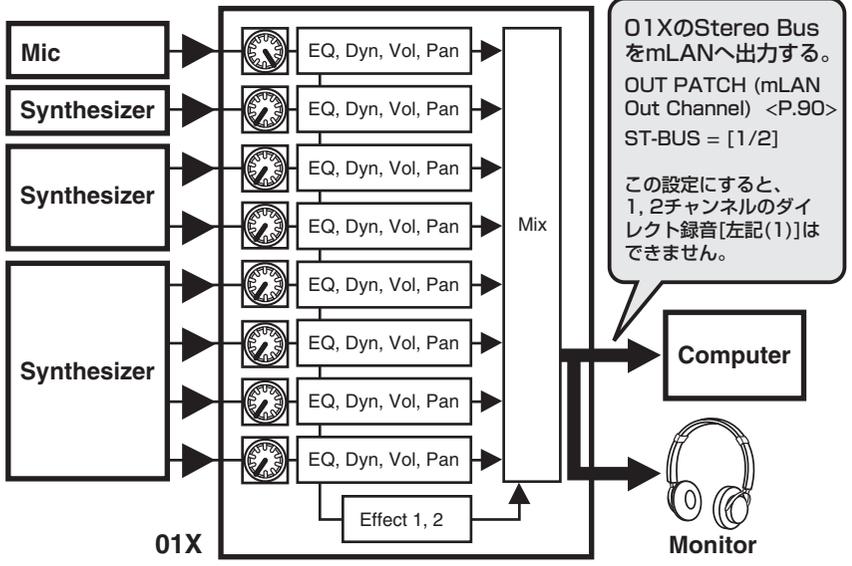
エフェクトは、各チャンネルにインサートして使うことができます。
Effect 1/2 PATCH = Ch番号 <P.102>



(2) ミキシング録音

Stereo BusをmLAN Outに出力すれば、O1Xに入力している音のすべてをミキシングして録音することができます。

- 例・複数のMIDI音源+入力している音を同時に録音する。
・1台のMIDI音源から平行出力しているドラム音をO1Xでミキシングして録音する。



O1XのStereo BusをmLANへ出力する。
OUT PATCH (mLAN Out Channel) <P.90>
ST-BUS = [1/2]
この設定にすると、1, 2チャンネルのダイレクト録音[左記(1)]はできません。

(3) Rec Busの活用例

例1: Stereo Busを全体の音のモニターに使いながら、特定のチャンネルだけのミキシングをRec Bus経由で録音する。

- ① Rec Busへ出力したいチャンネルのRec Busへの出力をONにする。
RECBUS (Recording Bus Assign) = ON <P.99>
- ② Rec BusをmLANへ出力する。<P.90>
OUT PATCH (mLAN Out Channel) : RECBUS = [1/2]

例2: Stereo Busで全体の音をモニターしながら、Rec Bus経由で特定のチャンネルを別室のモニター(ヘッドフォン)に送り、ボーカル(Mic)をダイレクト録音する(STEREO/AUX OUTにて別モニター)。

- ① ボーカルへ送る楽器音のみRec Busへの出力をON。[例1の①]
- ② OUT PATCH (St/Aux Out Port) : [RECBUS] = ST/AUX OUT <P.91>
- ③ Reverbの出力もRec Busへ出力する。
Master LayerのSTI 1 Rec BusをONにする。[例1の①]
- ④ ボーカル(Mic)の入力チャンネルをダイレクト録音する。[左記(1)]

* 説明文中の <P.xx> は取扱説明書、<ガイド P.xx> はインストールガイドの参照ページを表しています。また、取扱説明書の「O1Xの構成」<P.25>やブロックダイアグラム<巻末>も、あわせてご参照ください。

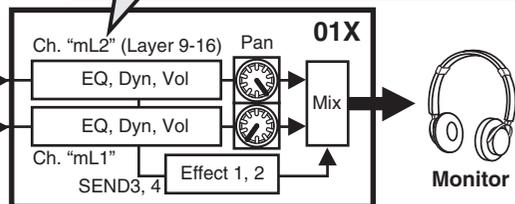
(1) 2ch再生(ステレオ2トラックミックスの再生)

オーディオシーケンサー内のソフトオーディオミキサーでミキシングされたステレオ出力を再生する。



1 オーディオシーケンサーのステレオ出力(メイン出力)をmLAN Audio Driverの1, 2チャンネルに出力する。<例：P.70-⑧>

2 O1Xの"mL1, 2"チャンネル(Layer 9-16)をステレオペアに設定し、フェーダーで音量を調整する。
1. mL1とmL2の[SEL]を同時に押す。
2. ノブ5を押す。(RESET-BOTH) <P.102>

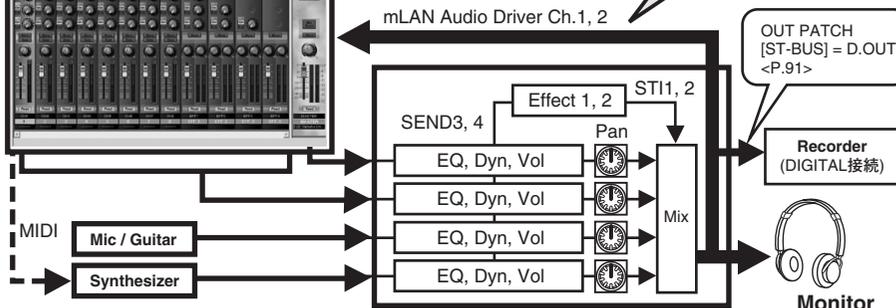


(3) O1Xをフル活用したミックスダウン録音

パラレル再生[右記(2)]とO1Xへの入力をミックスダウンして、コンピューターへ録音する。(ステレオ2トラックミックスを録音して、曲をオーディオデータとして完成させる)



O1XのStereo BusをmLANへ出力する。<P.90>
OUT PATCH (mLAN Out Channel) : ST-BUS = [1/2]
この設定にすると、1, 2チャンネルのダイレクト録音[裏面(1)]はできません。



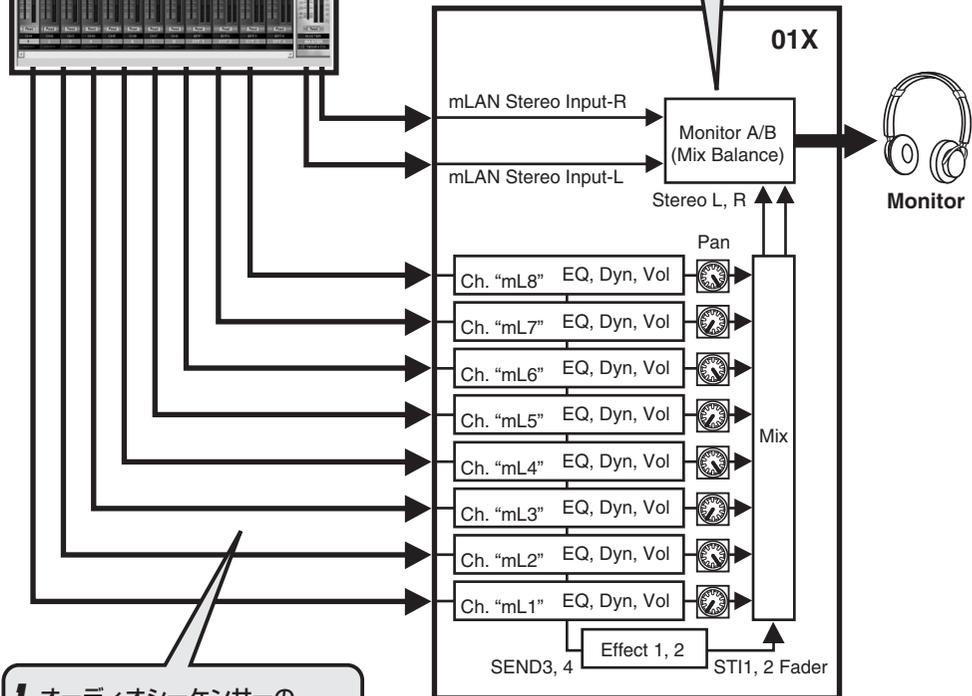
(2) パラレル再生

オーディオシーケンサー内のソフトオーディオミキサーから各チャンネルをパラレルに出力し、O1Xでミキシングする。



2 O1XのmLAN Stereo (Monitor) Inputを利用する。<例：P.96>

- ソフトミキサーのステレオ出力をmLAN Stereo Inputへ接続すれば、O1Xのインプットモジュールを使わずに、シーケンサー出力とO1X出力の両方をモニターできます。
- mLAN Audio Driverのチャンネルは、mLAN Auto Connectorの設定によって変わります。<ガイド P.9, 20>



1 オーディオシーケンサーの各チャンネルをmLAN Audio Driver 1チャンネルから順番に出力する。<例：P.70>

パラレル出力の方法は、シーケンサーによって異なります。
例・ソフトミキサーの各チャンネルのダイレクトアウトごとにmLAN Audio Driverのチャンネルを選択する。
・ソフトミキサーのバスミキサー経由で振り分け、バスごとにmLAN Audio Driverのチャンネルを選択する。